YOKOHAMA RIVER

川のはなし

KAWA NO HANASHI

VOL.2 （令和元年11月）
発行：道路局河川企画課

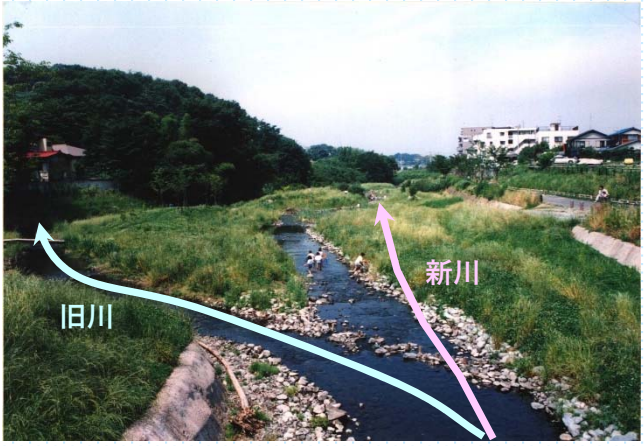
第二稿
いたち川（旧川と新川が一体となった水辺空間）

いたち川は、栄区を東西に流れる境川水系柏尾川の支川であり、流路延長約9.0km、流域面積13.88km²の２級河川です。
第二稿は、中上流域での旧川を活用した水辺空間の整備を中心に紹介していきます。

1　旧川（きゅうせん）とは

「旧川」は、河川改修前の水面幅が狭く蛇行している川であり、「新川」は、河川改修で整備した水面幅の広い直線的な川を指します。
旧川は、新川の整備が完了した後、治水機能としての役目を終えることになりますが、従来から灌漑用水として人々の生活を支えるとともに、樹木に覆われ、自然を色濃く残す潤いや安らぎを与える貴重な空間を有しています。
いたち川流域の豊かな緑は、大規模な宅地開発によりいたち川沿川に残るのみとなり、沿川の緑や旧川を含む生態系などを守るため自然環境にどう配慮するかが河川整備計画の重要な点となりました。

旧川のようす（扇橋の水辺 稲荷橋下流）

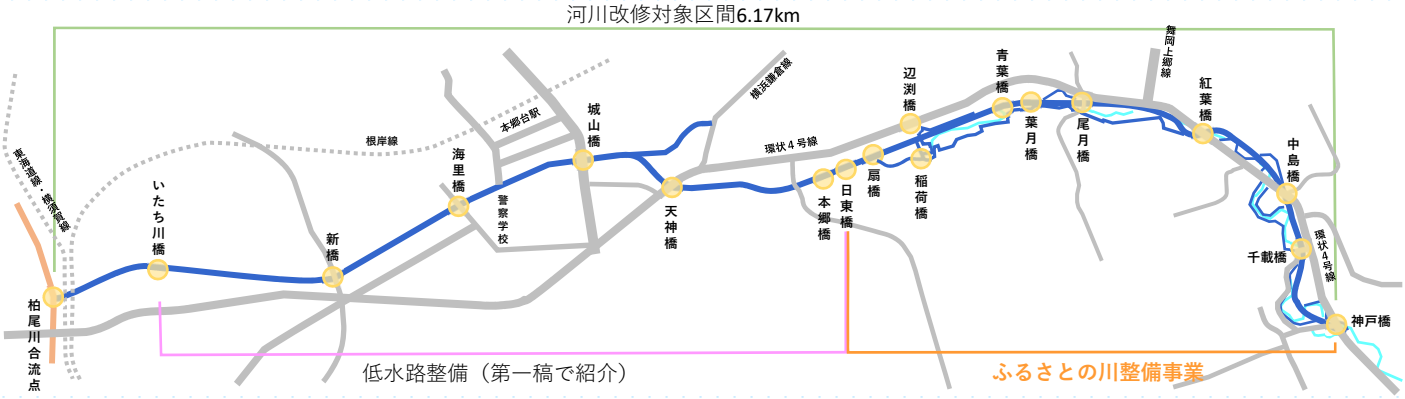


旧川と新川

旧川のようす（坊中の水辺 青葉橋下流）

2　多自然（型）川づくり（ふるさとの川整備事業）

日東橋から神戸橋までの区間は、昭和62年「ふるさとの川整備事業」の創設に合わせて、平成元年に当時の建設省から認定を受け、周辺の景観や地域と一体となった河川改修を始めました。そこで、旧川の魅力を最大限に活用するため、旧川と新川の間の土地を買収し、地域のシンボルとなるような良好な水辺空間を創出しました。

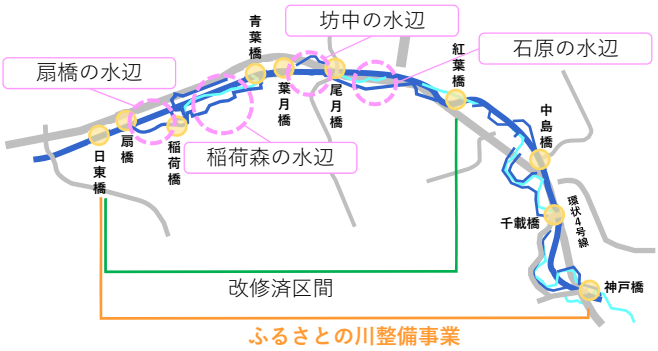


いたち川河川改修概要図

引用）上記写真：河川企画課所蔵

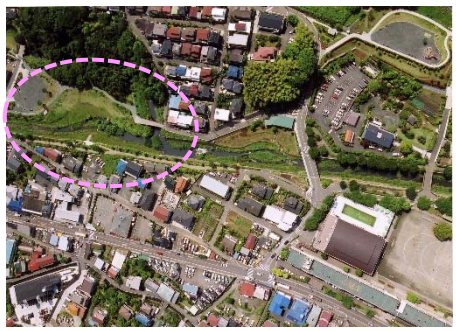
3　水辺拠点

旧川と新川を一体とした水辺空間の創出として、ふるさとの川整備事業区間では８箇所の計画のうち、４箇所の水辺拠点の整備が完了しています。この水辺拠点は、周辺の人々の交流、憩い及び市民活動の場として、現在でも幅広く利用されています。
本稿では整備が完了している水辺拠点を紹介します。



水辺拠点概要図

扇橋の水辺

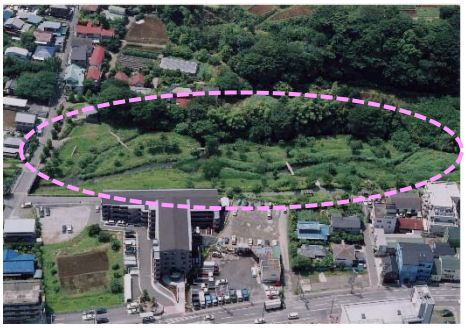


この拠点は、保存緑地や公園区域と連続して一体の空間が構成されています。

河原広場は、緩やかな勾配で護岸を形成し治水安全度を確保しながら親水性の高い空間を創出しています。

旧川は、多様な環境を保全・保護するため極力自然を残し、隣接する既存樹木内に再生利用樹木チップで散策路を設けました。

稲荷森の水辺

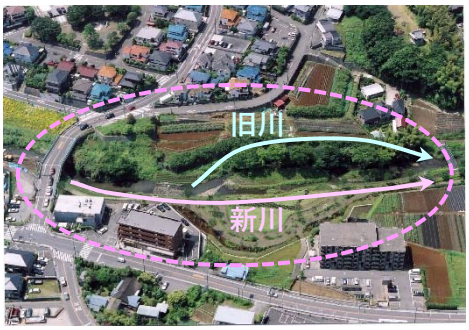


この拠点は、旧川に隣接する用地を買収し、さらにこれに接する斜斜面林と河川が一体となる空間の連続性を確保しています。

旧川を活用するとともに新川との間の地盤を下げ、旧川・新川が一体となった広がりのある空間を確保しています。

河川改修前は畑や宅地であり、地盤が非常に軟弱であったため、沢山の石で置き換え、良好な河床を整備しました。

坊中の水辺



この拠点は、旧川沿いの既存樹木を極力残す手段として、旧川と新川の間に中の島を残した水辺空間としています。

新川は、緩やかな勾配で護岸を形成し河原広場を確保しています。憩いの場、遊びの場としても利用されています。

護岸は、フトンカゴ護岸を主体とし、フトンカゴ上部は植生マットで覆い、植生の早期回復を図り、周辺環境に配慮しました。

引用）上記写真：河川企画課所蔵

石原の水辺

この拠点は、市民が多目的に利用いただくための広場を整備しました。遊び場や防災訓練など様々な用途で利用されています。

白い扇形の階段で水辺へ下りることができる親水広場を整備し、子供たちが水辺で触れ合える空間となっています。

親水広場や緑に囲まれた空間に目を引く赤い「石原橋」や隣接する市民の森などがあり、自然豊かで季節を問わず水鳥の姿も見られます。

4　いたち川プロムナード、川辺の散歩道

魚道、いたち川プロナード、川辺の散歩道概要図

いたち川プロムナード

「いたち川プロムナード」は、いたち川橋から天神橋までの両岸にある河川管理用通路を道路事業としてプロムナードを整備しました。歩行者ネットワークの中心的ルートとして、日常的な生活動線として利用され、自然な川を眺める姿、川とふれあう姿などが多く見られる空間となっています。

川辺の散歩道

「川辺の散歩道」は、天神橋から日東橋までの区間に、川の自然復元と併せてけやき並木を整備しました。
また、川と町を結ぶ広場、散歩の休憩や川を眺めるベンチ、川辺へと続くスロープなど、川辺を安全に楽しく散歩ができる空間となっています。

維持管理の時代となり、整備された環境を維持するための創意工夫が求められています。
日本に誇れる「いたち川」の多自然（型）川づくりの歴史、いたち川の整備に携われた方々の取組んできた技術や姿勢に、これからの時代にもつながる学ぶべきことがあると再認識しました。
次稿は、他の川に場所を移して、引き続き川の魅力を紹介していきたいと思います。

引用）上記写真：河川企画課所蔵